

鐘の音

kane-no-ne

パートナーシップさいたま
(さいたま市男女共同参画推進センター)

広報誌

vol.20

2010.3 発行



▲「動物たちのいのちの輝きを伝える」
旭山動物園園長 坂東 元さん

特集 学びあい 語りあい 集いあう 2

～平成22年度 講座・講演会予定～

- Pick up 快適に働き続けるためのハラスメント対策セミナー..... 3
- 第9回「女・男フェスタさいたま」を開催しました!..... 3
- 女性カレッジ2009を振り返って..... 4
- ただいま活動中 「わたしらくらぶ」..... 4
- 女性の悩み相談 相談室から..... 5
- コラム 数字..... 5
- Book Navi 図書のご案内..... 5
- 施設・相談のご案内 / ほっとたいむ..... 6

学びあい 語りあい 集いあう

平成22年度 講座・講演会予定

変遷を続ける複雑な社会のなかで、
男性も女性もより良い人生を生きるために、
パートナーシップさいたまで
共に学び共に語りあいませんか

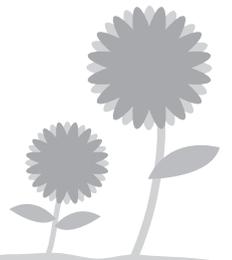


講座名	内容	実施時期・回数	会場	対象
快適に働き続けるためのハラスメント対策セミナー	働く人の人権を傷つけるパワハラ、モラハラに負けないためのスキルを学び、快適に働き続けるための力を身につけます。	5月 2回	パートナーシップ さいたま	市内在住・在勤の 男女
素敵に年を重ねたい! 女性のための元氣アップセミナー	社会の創り手として様々な生き方を選択している女性のこころと体の健康に着目して、よりいきいきとした自分になるための、私の「もっと輝きたい!」を応援します。	5月～6月 4回	ひび 女・男プラザ	市内在住・在勤の 女性
女性カレッジ2010 ー情報を読み解き活用する	メディアから発信される性別による固定的な役割分担や女性の性を商品化した表現など、偏った情報の真偽を判断し、自ら情報を読み解き、活用するチカラを養います。	【前期】6月～7月 5回 【後期】9月～10月 5回	パートナーシップ さいたま	市内在住・在勤・在学 の女性
男女共同参画週間 記念事業 シネマ「闇の子どもたち」とトーク「アジアから人権を考える」	児童虐待や人身売買などの問題について、人権尊重と男女共同参画の視点に留意し、学びます。また、女性や子どもを取り巻く様々な問題から、国際理解を深める機会とします。	6月 1回	彩の国さいたま 芸術劇場	市内在住・在勤・在学 の男女
女性のための就職支援セミナーと個別相談	厳しい雇用環境にある女性の求職者を対象に、就業意識の高揚や職務経験等に応じた適切な職業選択の支援等を行います。	7月 3回×2会場	パートナーシップ さいたま、浦和コ ミュニティセン ター	市内在住・在勤・在学 の女性
幼児をもつ母親のための講座	母親たちが置かれている子育て中の環境を検証し、子育てしながら、自分自身も成長していく手がかりを探ります。	9月 4回	パートナーシップ さいたま	市内在住・在勤の 女性
一人ひとりのワーク・ライフ・バランス	仕事と生活の両立に向けて、一人ひとりのワーク・ライフ・バランスを推進します。	10月 3回	パートナーシップ さいたま ほか	市内在住・在勤の 男女
DV防止講演会 テーマ「未定」	女性に対するあらゆる暴力の根絶をめざし、配偶者からの暴力についてテーマに沿って考える機会とします。	11月 1回	浦和コミュニティ センター	市内在住・在勤・在学 の男女
男性カレッジ2010	「社会的・文化的につくられた性としての男性」について理解を深め、女性と共により良いワーク・ライフ・バランスを実現します。	11月～12月 4回	パートナーシップ さいたま	市内在住・在勤・在学 の男性
離婚の選択、その前に	離婚の判断を下す前に、その選択の厳しい現状と今あなたがやらなくてはならないことを学びます。	1月 2回×2会場	パートナーシップ さいたま、岩槻駅 東口コミュニティ センター	市内在住・在勤の 女性
男の人生塾	職場、家庭、地域の中で、男性がより充実した人生を送ることができるように、男性自身の自立につなげます。	2月 5回	ひび 女・男プラザ	市内在住・在勤の 男性

※このほかにも講座を企画しています。詳細につきましては、市報さいたま、ホームページ等でお知らせします。



快適に働き続けるための ハラスメント対策セミナー



陰湿な言葉や態度、身振りや文書などによって、働く人間の人格や尊厳を傷つける。肉体的、精神的に傷を負わせて、その人間が職場を辞めざるを得ない状況に追い込んで、職場の雰囲気悪くさせる、などの様々なハラスメント行為。

ハラスメント行為から自分を守るためには、ハラスメントを正しく理解すること、そして加害者の傾向を見極めることが大切です。

パートナーシップさいたまでは、平成22年5月に「快適に働き続けるためのハラスメント対策セミナー」を全2回にわたり実施します。

適切な対処法を学び、快適に働き続けるための力を身につけましょう。

(市報やホームページでもお知らせいたします。)

回	日時	テーマ	講師
1	5月15日(土) 午前10時~12時	「人権を傷つける」 ってどういうこと	棚村 政行さん (早稲田大学 法学部教授)
2	5月22日(土) 午前10時~12時	ハラスメントに 負けない自分 になるために	横山 佳純さん (日本弁護士連合会 犯罪被害者 支援委員会委員)

会場 パートナーシップさいたま 会議室3
 対象 市内在住・在勤の男女
 定員 24名(先着順)
 費用 無料
 託児 1歳6か月以上の未就学児 5名
 申込 5月11日(火)17時まで電話、FAX、Eメールで受付

ひと ひと 第9回「女・男フェスタさいたま」を開催しました!

- 期日 平成22年1月30日(土)・31日(日)
 会場 シーノ大宮センタープラザ 9階・10階
 テーマ 「共に生きよう 夢にむかって」
 内容 -----
 ●さいたま市男女共同参画推進団体連絡協議会の加盟団体による展示・ワークショップ・ステージ発表
 ●講演会「誰もが幸せに生きるために」
 (講師 NHKエグゼクティブアナウンサー 古屋 和雄さん)
 ●上映会「60歳のラブレター」(2009年 日本映画)



▲「誰もが幸せに生きるために」と話す古屋さん

★「鐘の音」編集員による見聞録★

毎年行われる女・男フェスタさいたまの今年のテーマは「共に生きよう 夢にむかって」。

明るいテーマなので、シーノ大宮センタープラザの会場は明るい雰囲気です。どのコーナーでも、笑顔が輝いているのが感じられます。

会場9階での多くの団体の展示とワークショップ。オヤツと目を見張らせ、考えさせられるものも多いのが特色。

30日の開会式には清水市長も出席されました。その後、テレビで顔なじみのNHKの古屋アナウンサーの講演。「誰もがみんな幸せに」とユーモアを交えていつものニコニコ顔で話されたのが印象的でした。

31日には映画「60歳のラブレター」が話題作だけに、たくさんの観客を集めていました。

その講演と映画の前のステージでは、考えられないほどの多彩なアトラクション。毎年毎年の参加出演で、おなじみの出演者のファンも多くいるのだそうです。

このフェスタの主催者に聞いてみました。

「おかげさまで、参加される皆さんは毎年増加しています。このビルの3階にも施設と事務所がありますので、いつでも皆様のお立ち寄りをお待ちしています」とのことでした。

(飯塚 喜一郎)

大好評を
いただき
ました

女性カレッジ2009を振り返って

～“時代”と女性たち エンパワーメントの歴史～

9/29 総論編—戦後の女性たちの歩み

講師：矢澤 澄子さん(東京女子大学現代学部教授)

戦後の女性たちの歩みから先人たちの苦勞と努力を知り、女性のエンパワーメントを継続、強化する必要があることを認識しました。

10/6 江戸時代 往来物に見る女性

講師：天野 晴子さん(日本女子大学家政学部准教授)

平安時代後期から明治初期にかけて出版された「往来物」から見える、近世の女性に向けた、女子教育や女性の教養、生活などを学びました。

10/13 平安時代の女と男 ～性差を超えて～

講師：服藤 早苗さん(埼玉学園大学人間学部教授)

性差を超え権力を発揮していた平安の女性たち。国母として権力を発揮した平安時代の女性たちに注目し、女性史研究の視点から学習しました。

10/20 ひめゆり学徒隊の女性が語る

講師：与那覇 百子さん(元ひめゆり学徒隊生存者)

沖縄戦で九死に一生を得た生存者の戦場体験を聴き取り、平和、命の尊さ、真実を知ることの大切さを実感しました。

10/27 病んでも老いても人生は華—賞味期限なし

講師：吉武 輝子さん(ノンフィクション作家・評論家)

人生50年時代から人生90年の時代となった現在、自分の生まれ持った才能、能力を自己開発しながら生き活きと人生を生きるために、未広がり生きていく術を学びました。

11/10 男女共学と生涯学習社会への道程

講師：佐藤 一子さん(法政大学キャリアデザイン学部教授)

機会の平等が教育の結果の平等にはつながっていない。職業能力の発揮が十分達成されていない現状で、生涯学習を通じて学ぶことが女性のライフデザインや社会参画、生きがいにつながり大きな意味を持つことを学びました。

11/17 人生100年時代と高齢女性の力

講師：樋口 恵子さん(評論家、東京家政大学名誉教授)

「祖母には祖母の人生があり、自身の人生をふまえて、母親たちの就労継続支援などや地域社会で祖母力を発揮している。が、この現実には、子育て支援を一例に、男女共同参画社会づくりをしてこなかった結果でもある。男女共同参画を推進し、子どもを持つことを喜べる社会をつくるのが、人生100年社会の基盤である」と学びました。



11/24 ワーク・ライフ・バランス社会へ

講師：竹信 三恵子さん(朝日新聞編集委員)

「妻つき男性モデル」から「両立女性モデル」へ—雇用不安の現在、女性も納税者になる働き方をして、安心な生活に変えていく、男女平等な賃金で働けるように社会の枠組みを変えていくなど、男女が共に創造するワーク・ライフ・バランス社会の実現に向けて学びました。

「わたしらしくらぶ」は誕生してまだ日が浅く、今はまだ様々な講座に参加して学ぶことが中心ですが、これからはグループ独自の企画や、他のグループとも情報提供し合える関係をつんでいけたらと夢を描いています。



▲様々な所に出かけたりしながら学んでいます



わたしらしくらぶ

年6月に「わたしらしくらぶ」を立ち上げました。女性カレッジでの出会いを大切に、今後とも長くつながって一緒に学んでいこうという主旨です。隔月に一度定期会を開き、意見情報の交換を行い、例会のない月は外へということ、小川町で和紙作り見学、県の施設 With You さいたまの見学、浦和地裁での裁判傍聴等を体験してきました。

ただいま活動中 「わたしらしくらぶ」

「女性カレッジ2008」から誕生した
自主学習グループを紹介します

パートナーシップさいたまの女性カレッジ2008を受講し、それまで気付かなかった社会が動く仕組みや法律との関係性を理解し、活躍する女性の体験談を聞くことで誰もが性別を超えてその人らしく生きることが大切なのだと学びました。学ぶことで気付き、気付くことで自分が変わるという発見がとて新鮮でした。その8回の講座を共に学び、記録誌作りに参加したメンバーが中心となって2009

“つながる”を大事に

私たちは、どこの国に生まれるか、どんな家庭に育つかを選べません。また、仕事も結婚も子育ても、始めてみて「こんなはずじゃなかった」ということばかりです。運命と呼ぶものはあります。でも、「これではいけない」と気付いた時から、生き方を変えようとすることはできるのではないのでしょうか？

DV、職場のいじめやリストラ、ママ友の仲間はずれなど、どれも暴力です。見えない傷を心と身体にたくさん負ってしまいます。自分が悪いからではないかと反省するのは、良いことです。けれど、暴力は絶対に悪いのです。お金や力を持つ者の中には、弱い立場に在る人をいたづらにも構わないと考えている人がいます。それは人権の侵害です。人間に上下も無いし、安心して暮らせることを望んでよいと思います。

相談というのは、一緒に「気付く」ことだと感じています。私たちは一人で考えていると、同じところでグルグル回ってしまったり、情報がないためにダメだと思いついてしまったり、大事なものは、つながること。誰かに伝え、話すことがその第一歩です。

相談員がその中の一人になれたらと思っています。生きるとは、つながって、気付いて、希望を持つことの繰り返しなのかもしれません。

(婦人相談員H)



18.0%

この数字は、日本人の30歳代女性の喫煙率(平成20年)です。

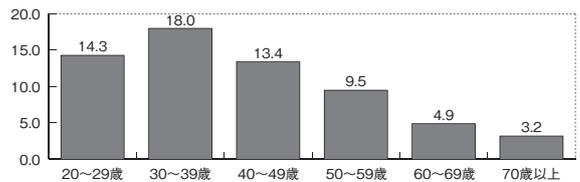
日本人の成人喫煙率は21.8%です。性別では男性36.8%で、平成7年から減少してきています。一方、女性は9.1%と男性に比べ低い割合ではありますが、平成元年から9~12%の間を上下しながら漸増しています。

ここで女性の年代別の喫煙率に注目しますと、グラフのとおり20歳代が14.3%、30歳代が18.0%と若年層で高い値を示していることがわかります。

また、WHO(世界保健機関)によると、世界的には喫煙率の減少の傾向があるのに対し、女性の喫煙率だけは増加の一途だとの報告があり、特に日本の若年層の喫煙率の上昇に言及しています。

とりわけ女性の若年層の喫煙は妊娠・出産等に悪影響を及ぼすため、禁煙が重要です。

日本人の女性の喫煙率(年代別)



平成20年「国民健康・栄養調査結果」より
(厚生労働省)



情報・資料コーナーで貸し出ししている図書のご案内です。

『ご夫婦しましょ! “パートタイム夫婦”のすすめ』

岩男 寿美子:著 1989年 <日本実業出版社>

社会の中の最小単位が夫婦だとすると、夫婦関係がうまくいってれば社会全体がうまく回るのではないだろうか。夫婦のあり方とは何なのか、いまの夫婦関係の何がどう問題なのか、そして充実した老後に向かうにはどうすればいいのかを考えさせられる。お互い自立したひとりの人間としてどういう生き方をしたいのか、その一部に夫がいる妻がいるという考え方。

「強くなった女と弱い男」「夫婦は元他人——と思えば…」
「夫婦は五分と五分の関係にある」などの小見出しでまとめられている。

巻末の著者の言葉。「夫婦関係がうまくいってれば家族ほどいいものはないのです。一にも二にも二人の努力しかないのだと思います。それを苦勞や忍耐ととらえるのは、自分にも相手にも不幸なことなのでしょう。」

平均寿命が伸びて夫婦でいる時間が長くなってきている。その時間を楽しく生きたいと思う。(安藤 ちか子)

『夫婦学 離婚しない、離婚されないための生活講座』

高橋 保:著 2007年 <三一書房>

現在の夫婦共稼ぎの状況は、不況の長期化の結果であり、そして共稼ぎの一般化は、伝統的固定的な性別役割分業を大きく変容させている。

このような実態のなかで、夫婦のありようすなわち理想的なあり方は「共生」の関係にあり、「共生」とは相手を生かし、自分も生かして共に生きることである。その手段として、ガーデニングや行く先々で人生の再発見ができる旅行を勧めている。

さらに「夫婦を、広く、人間社会の視点からみれば、夫婦は、人類・人間社会の存続と発展の要です。(中略)夫婦は、国や社会の要です。」と基本理念も述べられている。

世界の夫婦像、夫婦が崩壊する時など内容の一端だが、副題の「離婚しない、離婚されない」負の要因ばかりでなく、プラス面から全容を理解するために薦めたい著書である。

(武藤 勝美)

施設のご案内

	パートナーシップ さいたま	ひとひと 女・男プラザ
場所	大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮 センタープラザ3階	緑区中尾1440-8 プラザイースト3階 <small>※浦和駅東口よりバス、「緑区役所入口」下車 又は東浦和駅よりバス、「プラザイースト南」下車</small>
開館時間	平日 9:00~21:00 土日・祝日 9:00~17:00	9:00~17:00
休館日	第4日曜日、年末年始	月曜日、年末年始
施設の利用	男女共同参画の推進を目的とする活動に、ご利用ください。 (パートナーシップさいたまの会議室・プレイルームと ひとひと女・男プラザの団体活動室は、利用登録が必要です。)	
情報・資料コーナー、交流コーナー	本や雑誌、行政資料、ビデオなどがあります。 閲覧、貸出しができます。ちょっとした話し合いに利用 できる交流コーナーもあります。	
お問い合わせ	048-642-8107	048-875-9966

相談のご案内

● 女性の悩み電話相談

女性の生き方、夫婦、親子の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎048-643-5813
月～金 / 10:00～20:00 土・日・祝 / 10:00～16:00	
ひとひと 女・男プラザ	☎048-875-9653
金 / 10:00～17:00	
浦和区役所 女性の相談室	☎048-829-6129
月・火・水・金 / 10:00～17:00	
中央区役所 女性の相談室	☎048-840-6132
月・水 / 10:00～17:00	
岩槻区役所 女性の相談室	☎048-790-0158
月・水 / 10:00～17:00	

● 法律相談(予約制) 女性の弁護士が相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎048-642-8107
第2・第4水曜日 / 13:00～15:30	
ひとひと 女・男プラザ	☎048-875-9966
第1・第3火曜日 / 13:00～15:30	

● 心の健康相談(予約制)

専門の女性の医師が相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎048-642-8107
第4火曜日(平成22年4月から第4金曜日になります) / 13:30～16:30	

◆相談は無料です。◆秘密は厳守します。

本誌の構成上、ブックナビなど編集員が分担する部分があつて、それを果たしたことが、会議後の雑談で、講座や各種相談の取次ぎなど当センターの業務の一端を理解させてもらったことなど、二年間、有意義だった。今後は地域社会のためのボランティアでもと考えてみる。

(武藤 勝美)

「鐘の音」編集に携わり早や二年。本の紹介やほつとたいむへの投稿をし、編集員会議の回を重ねることに構成などよく分かってきました。編集員も世代が実に幅広く得意分野を發揮し、参加してみても、一人の人間として考え行動する大切さを学びました。

(樋山 睦子)

一年間の編集員活動を通して、いろんな方と出会い、様々な情報や考え方を共有すると同時に、自分自身を考える沢山の良い機会を頂きました。これからも、社会に目を向け、自信を持って自分らしい生き方ができるように頑張りたいと思います！

(土屋 多万緒)

「光陰矢の如し」というのが、私の場合には戸惑いと新発見の中の二年間が過ぎた。人は思いをこめて作業をしている時が一番美しいと言われている。私は夢中で活動している女性の瞳を何度素晴らしいと見たことか。そんなレディたちに幸あれ。

(飯塚 喜一郎)

編集員として、自分も成長しながら情報を発信したいとの思いで始めました。編集員メンバーとの交流で学ぶことも多く、男女共同参画の中でイキイキと活動している人たちを見聞きしお知らせできたと思います。充実した二年間、ありがとうございました。

(安藤 ちか子)



ほつとたいむ

広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。郵便、FAX、E-mailでパートナーシップさいたままでお願いします。

《誌名「鐘の音」》
大宮の古い地名「鐘塚」に建てられた「パートナーシップさいたま」から、男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、その願いを込めて名づけました。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.20 2010年3月25日発行
〈編集・発行〉

さいたま市男女共同参画推進センター パートナーシップさいたま
編集員/安藤ちか子・飯塚喜一郎・土屋多万緒・樋山睦子・武藤勝美
〒330-0854さいたま市大宮区桜木町1-10-18シーノ大宮センタープラザ3階
電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801
E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp
7・11・3月発行(年3回)

